

【実践報告】

北海道で働く元留学生社会人のキャリア意識（第二篇）

——中国語圏からの元留学生社会人に対するインタビュー調査を手掛かりとして——

菅 原 良*
渡 部 淳**

Career awareness of former international students working in Hokkaido (Vol.2)

- Based on an interview survey with former international students from Chinese-speaking countries -

Ryo Sugawara *
Makoto Watanabe **

1. 道内で就労する元留学生社会人のキャリア意識（第一篇からの続き）

Q40 V：あまり皆さん知らないかもしれませんが、日本人が大学を卒業して就職すると、3年以内に30パーセントぐらいが辞めてしまいます。景気が良い悪いに係わらずです。ものすごく景気が悪くても30パーセントぐらいは辞めてしまいますし、景気が良くてもやはり30パーセントぐらいは辞めてしまいます。ただ、もっと問題なのは、温泉地は都会ではないし、働き方も不規則です。シフト勤務で朝早くて夜も遅いです。なおかつ、給料も安いでしょう。だから温泉とかで働く人の3年以内で辞める確率は80パーセントもあります。とはいうものの、人手が足りないからいい人をたくさん採用したいと彼らは言うのですが、いい人を採りたいと思うのであれば、もう少し労働環境を良くしないと、良い人材は集まらないと思います。北海道は観光地なので外国からもたくさん観光の人が来ます。観光客は来ますが、そこで働く人は満足できるお金をもらっておらず、Liさんは顔に出ると話されましたが、満足がいかないとききちんとしたサービスの提供ができません。そこが問題だと思います。ですから、これは皆さんに今日、インタビューをお願いしている理由になるのですが、インバウンドでたくさん観光の人が来るから、中国語が話せて日本語も話せて、なおかつ日本の文化も知っている人は、実は北海道にとってすごく貴重な人材なのです。皆さんもそうです。そうなのですが、北海道にとっても皆さんにとっても満足できるような環境にあるかという、どうも違うのではないかと問題があります。それが今回このようにインタビューさせてもらって、民間企業ももう少し考え方を変えたほうが良いのではないかと思います。民間の会社は、結局一円でも多く儲ければ良いわけなので、そうだとすると、この労働環境はなかなか自分たちから変えるということは難しいわけです。それならば、今度は行政がきちんと留学生の皆さんが安心して、それからちゃんとした報酬を貰えるようなところで働いてもらう環境を作らないといけないのですが、それもできていないようです。そこの、皆さんにとっても満足で、なおかつ採用する側にも満足のいくような接点のようなものをつくれればと思っています。せっかく北海道に留学して、皆さんのように日本語を勉強して日本で働きたいと思っている、そういう北海道にとってすごく貴重な人材をがっかりさせて帰国させるのは、北海道にとって損失でもったいないことです。皆さんにとっても、やはり日本には行かなければよかったなんて思われたら嫌だなと思います。

Q40 W：今、インバウンドで中国とかアジアから人がたくさん来ています。最初に思ったのは、日本人が

* 明星大学明星教育センター Meisei Education Center, Meisei Univinternationalersity

** 北海道文教大学外国語学部 Faculty of Foreign Languages, Hokkaido Bunkyo University

大学でいい加減に語学を勉強してもあまり役に立たないのです。完璧に話せないと仕事ができないからです。ですが、今はもう留学生がたくさん北海道に来ていて、皆さんのように北海道が好きで住みたい、残りたいのにやりたい仕事がないとか、労働環境が悪いという問題があります。ですが、北海道は人口が減少していて、北海道経済を維持するにはもう外国と繋がるしかないのだと思います。北海道は何も努力していないのに、勝手に外国人が来てくれてこんなラッキーなことはないと思うのです。でも、これは絶対に活かさなければいけないことです。皆さんのような人がたくさん住んで、アイデアもあってやる気もあったりします。日本の経営者の考え方は、足りないところや言葉ができないところだけ、外国人を入れて使おうとします。だから、北海道に住んでいる外国人材は実はグローバル経済とお金と人を連れて来るものすごく大事なキーパーソンのはずなのです。外国人材ではなく、中核人材、コアのものすごく大事な人材です。ローカルな経済と外国のお金と人を繋げる訳です。例えば、さっきの医療の話のように、北海道の人も外国の人もハッピーになるように繋げてくれるのは、やはり北海道に残ってくれている留学生の方だと思うのです。それで、そういう人たちが今どういう現状にあるかという、こういう情報交換をする場所がなく、行政も把握してないし、行政、ビジネス、皆さん、それからわれわれの研究が、全然情報が共有できていないことが今回分かりました。入管の法律とか、いろいろと日本は面倒ですよ。最終的な目的は、そういうのをどうしたらみんながやりやすいようになるのかという制度を変えるところまで行けたらいいなと思っています。

A40 C: おっしゃるとおりだと思います。

Q41 V: 北海道には●●の人がたくさん住んでいると思いますが、ネットワークはあるのですか。

A41 C: 留学生のネットワークの方が強いです。

Q42 V: 留学生というのは、大学に関係なくですか。大学ごとですか。

A42 C: 2000人ぐらいのネットワークがあります。

Q43 V: それを皆さんは使っているのですか。

A43 C: 入っています。

A43 L: 私も入っています。

Q44 V: それは日本での留学生ネットワークですか。

A44 C: 日本なのですが、途中で帰国している人たちも中にはいます。ですが、留学生がほとんどです。

Q45 W: 全国ですか、北海道ですか。

A45 C: 北海道です。今は6グループぐらいあるかと思っています。

A45 L: 3000人ぐらいかな。

Q46 V: ●●の留学生だけで、北海道に3000人いるのですか。

A46 C: 帰国した人もいますが、このグループの中にはそのぐらいいます。

Q47 W: 大学生も入っているのですか。

A47 C: 入っています。卒業したら帰国するのですが、基本みんなグループに入っています。来たらもう入っていて助け合いのようなことをしています。譲ります、もらいます、売りますというように。地震の時にみんなどうすればいいとか。中には日本語が分からない人もいますので、日本に来たばかりの人は不安なことが多いので、そういうときは、入っていると割と心強いです。

Q48 W: ところで、日本で就職するときに、もっとこういうものがあつたらいいとか、そういうことはありますか。こういうサービスがあつたらいいとか、こういう情報をもっと知りたかったとか。例えば、今まで聞いた中で出てきたのは、卒業するときに就職しようと思ったのですが、そもそもどういう会社が必要とされているか分からないとか、そういう意見もありました。自分がどこで働けるのかとか、自分がどこで必要とされているのか分からないとか。

A48 L: Iを辞めてXに入ったのですが、Xは免税店なのでほとんどが中国からのお客さんです。だから中国語が話せて日本語も話せるのは必要とされるのではないかと考えて受けました。

A48 C：私の場合は（日本の）大学に行っていないので、中途採用の情報は全然分かりませんでした。どこに行ったら採用してもらえるのか、中途採用の時は困りますね。最初は旅行会社とかに当たってみたのですが、たまたま今の会社に入ることができました。大手には採用されないと思って試そうともしませんでした。どういう会社が求人しているという情報があると助かります。

Q49 W：日本は4月に新卒を一括採用するとか、そういうのは分かっていましたか。

A49 C：後から分かりました。留学生が来た時に、そういう説明会があるといいかもしれませんね。日本に来たときに、もう心の準備をして、卒業するだいぶ前に動き出さないと間に合わないという文化を教えないと。

A49 Li：そうですね。最初に乗り遅れると、全部遅れてしまいますので。

Q50 W：以前は、留学生は勉強したら帰国する人たちがほとんどだったので、就職を考えたことがなかったのです。ここ15年程で留学生の数が増えて、皆さんのように日本に残って働きたいという人の方が圧倒的に多くなってきています。

A50 C：以前は、国費で留学に来ていたりしていました。今は海外で働きたい人が増えたから、まず留学からという人が多くなったのだと思います。海外で働きたいから、留学してそのまま就職したい。

Q51 W：留学の理由も変わってきているということですね。20年前は北大の留学生は国費留学生で、勉強に来ていました。だから卒業したら自分の大学に戻って、研究者になったりするパターンが多かったですね。

A51 C：国と契約もしているので、帰国しないと違約金のようなものを払わなければいけないとかありました。当時は帰国したらいい就職先がありましたが、今は帰国してもいい就職先がないのです。

Q52 W：就職先がないから留学する人もいますよね。

A52 C：中にはいるかもしれません。

A52 L：私は自分の国で大学を卒業してから留学しました。卒業してもまだ就職しなかったからです。日本語をもっと勉強したかったということもあります。

Q53 W：いろいろなパターンがあるのですね。

A53 C：留学しなくても仕事したくないから進学するという人も中にはいます。

Q54 W：それはでも親が裕福だったらできますが。

A54 C：そうかもしれません。就職したくない人が増えたみたいですね。

Q54 W：遊びに来ている人もいますよね。

A54 C：います。お金持ちはいます。

Q55 W：海外で生活してみたいと。

A55 C：なかには日本での留学が終わったら、次はどこへ行こうかなと考える人もいますね。

Q56 W：ほとんど授業に来なくて、ブランドのバッグを買いまくって遊んでいる人も何人かいますね。要するに自由でしょう。自由が楽しめるみたいな。大学に来ないから困ったものですが。

A56 C：それで卒業できるのですか。

Q57 W：卒業できない人もいますね。途中で帰国してしまう人もいます。ビザが更新されないでしょう。家賃を払わなくなって行方不明になり、気付いたら帰国していたりとかすることがあります。

A57 C：私たちのように日本にいる人間が影響を受けます。●●人には悪い人がたくさんいるとかいって。

Q58 W：●●というより、今は若い人が全体的にそうなっています。日本もです。

A58 C：日本もそうですか。

Q59 W：何をしているのか分からないとか、どこにいるのか分からないとか。確かにイメージが悪くなっていますね。

A59 C：イメージが悪くなるから、そういうことは止めて欲しいです。

Q60 W：昔は勉強をしに来ていましたが、今は仕事をしたいから、まず留学してその国のことを学んでとか。

A60 L: それもありますね。

Q61 V: 札幌に来る前は、北海道に来たことはあったのですか。

A61 L: ありませんでした。私が北海道を選んだのは、あの頃、有名な映画があって、北海道で撮影したい
たのです。景色がとても綺麗だから北海道に来ました。

A61 Li: なかったです。私の場合は研修生とかを学校が受け入れていないので、そのまま大学院入試を受け
ました。受験して●●に帰って結果を待って、1年目は落ちて2年目に受かって来ました。

A61 C: Lさんの理由はいろいろびっくりです。面白過ぎます。採用の方がイケメンというお話は面白かつ
たです。

Q62 W: でも、それ分かります。どこかの国に留学するのは、その国の人を好きになったとか。そういう
ことはありますよね。

A62 L: あります。

A62 C: そういうことですよ。

Q63 V: 留学の動機は単純なのですね。Cさんはもう北海道に10年ですよ。北海道の生活に満足してい
ますか。

A64 C: 満足しています。もうそのうち永住の申請を出そうと思って、今、書類を集めています。10年にな
れば永住の申請を出せるのです。みんな、それを目指して最終的には独立するというパターンが多いで
す。元同僚と一緒に仕事をしていたのですが、去年永住を取れてすぐに会社を辞めてフリーランスになっ
て今は自由です。

Q64 V: その方は何をしていますのですか。

A64 C: 先生をしています。いろいろな大学や高校で中国語の講師をしています。非常勤の先生です。うち
の会社にもアルバイトで来ています。

Q65 W: 北海道は、どこが好きですか。

A65 C: 景色と空気ですね。人も大事です。優しい人が多いです。

A65 L: 人。私は大学時代に、ある朝学校に行く途中で知らないおばさんから「おはようございます」と声
を掛けてもらいました。あの時、とても嬉しくて感激しました。●●ではこういうことはなかったです。
道で迷っていたらい、他の人にどこどこに行きたいのですかと聞かれ、すぐに連れて行ってくれました。
とても親切です。

A65 Li: 人が少ないところですよ。少ないから住みやすいです。東京のぎゅうぎゅうの満員電車とかは苦手で、
●●はどこに行っても並んで待っているし、そういう人が混み合っている所が好きではないです。

Q66 V: 北海道の寒さは気にならないですか。

A66 Li: 大丈夫です。私の地元もマイナス10度は平気であります。ただ雪はこれほど降りませんが。

A66 L: 寒さは私の故郷と大体同じです。

A66 C: 私の故郷はマイナス20度、30度とかもあります。

Q67 V: 日本に留学してきて仕事を探すのは大変でしたか。

A67 L: 大変ではなかったと思います。説明会に行ってみつけて面接とかして。

A67 Li: 自分の場合、最初はメーカーとか、そういうもののづくりに入ろうと思っていました。いちばん惜し
かったのがS製作所の二次面接で落とされたことです。

Q68 V: 日本に留学してきて就職しようとするときに、こういうことを教えてくれたら良かったなというこ
とはありますか。就職して困ったこととか。

Q68 L: 職場のフロントで私だけが外国人で他の人は全部日本人でした。最初の何カ月かはコミュニケーショ
ンがあまり取れませんでした。

Q69 V: コミュニケーションというのは言語ですか。

A69 L: 仕事のやり方とか考え方とかもです。●●にいたときに働いたことはなく、日本に来て、留学2年

でいきなり日本の企業に入って周りの日本人たちと一緒に働いて、やはりいろいろ考え方が違っていて苦勞しました。

V70 V：では働くときのコミュニケーションの取り方とか考え方、日本の仕事のマナーとか作法とか、その辺をもう少し大学のときに勉強できればと思いましたか。

A70 L：できたらいいと思っています。

A70 Li：礼儀作法とかは、先輩とか周りの人を見て真似していたつもりでした。例えば、制服の中にシャツ1枚を着なければいけないということも知らなくて、先輩に言われました。そういう細かなところはありましたが、特にトラブルというか自分の悩みには至りませんでした。

Q71 V：皆さんは日本で働くようになって何年か経っていますが、日本で働いていて困るということは、先ほどのような話以外にはないですか。

A71 L：私の考え方によるのかもしれませんが、嫌だと思えばもう辞めてしまうので。それから、日本はこういう国で、東京にいる友達に聞いても、営業職だったら残業とか、上司にパワハラのことを言われたり、とかいうことはどこにいてもあるので、大目に見るしかないなということも、いまは少しずつ分かってきました。日本で生活すると選んだ以上、それなりの犠牲といいますか、自分ができるところまで譲って、できなかったらIのときのように替えればいいのかという感じで楽な生き方を選んでいきます。

Q72 V：でも、多分今の人たちはみんなそうですね。あまり我慢しないというか。

Q72 W：その方が心の病気とか健康の被害が出ないです。僕も同じです。できるところまではするけれども。

A72 L：そうですね。それ以上を求めてももう無理です。

A73 Li：実際、多分Lさんは知らないと思いますが、日本人の同期のひとりが鬱になって会社を辞めました。後から同期に会ってそういう話を聞きました。

A73 C：私は留学経験はないですが、もし留学していたらインターンシップのようなものがあると良いと思います。留学期間中に留学生向けのインターンシップがあつて、少し体験できたりすると、全部見られないかもしれませんが、少しそういう環境に置かれたらどうなるかということが想像つくのではないかと思います。

Q74 V：インターンシップは留学生に限らないと思いますが、コーディネートする大学の方に問題があるように思います。極端かもしれませんが、インターンシップを受け入れてくれるならどこでもいい。どこでもいいから受け入れてくれというのではなくて。就職する人のためのインターンシップなので、どこでもいいという発想はおかしいと思います。せっかくインターンシップに行くのならちゃんとしたところに行ってもらいたいと私たちは思っています。実際問題として、なかなかそうはうまくいっていないことがあると思いますが。

A74 Li：インターンシップはうちの大学にもあったのですが、ほとんどがホテル系です。住み込みバイトのような感じです。ただの夏のアルバイトを募集して1週間仕事して何もならないのではないかと。

Q75 W：Iのように、夏休みはお客さんがたくさん来るから、人が多かったらバイトみたいな感じでインターンシップ生も役に立つ。

A75 Li：給料もあげないし、そういうインターンシップでした。

3. まとめ ～留学生のキャリア形成を取り巻くコンプレキシティ～

ここまで行ってきたインタビュー調査から明らかになってきたことは次のようにまとめることができる。

i) 北海道を留学先に選択した動機は希薄である（上記のインタビューの A61 L、A61 Li、A61 C などより）が、留学生として来道すると、ii)（自然環境・生活環境などに魅力を感じて）北海道で就職することを考え、就職活動を試みる（A28 L、A29 L、A30 L、A30 C、A13 Li、A14 Li、A15 L、などより）が、iii) 就職

活動に関する情報の不足 (A40 C、A41 C、A42 C、A43 C、A43 L、A44 C、A45 C、A45 L、A46 C、A47 C、A48C など)、iv) 個人で行動せざるを得ない就職活動 (A15 L、A16、A18 C、A19 L など)、が問題となっている。

これらの問題は、留学生を受け入れる大学が、i) 留学生のキャリア形成プログラムを整備し、ii) 留学生の就職活動を支援する仕組みを整えることによって、解決に近づくことができるとした渡部・菅原 (2020) の研究を追補するものとなった (図1)。

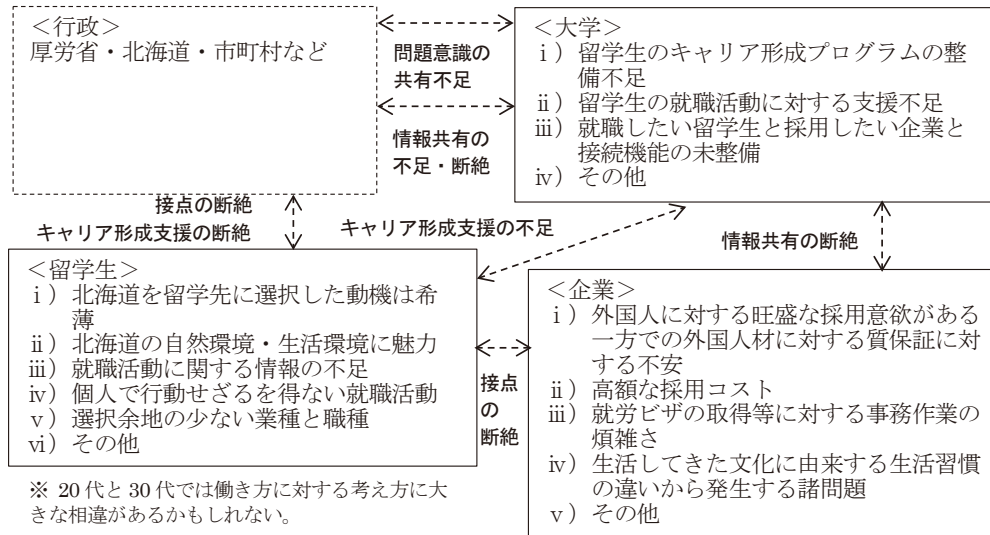


図1 留学生のキャリア形成を取り巻く支援体制の連関

謝辞

本研究は、北海道開発協会開発調査総合研究所平成31年度研究助成を受けたものである。

文献

渡部淳, 菅原良 (2020) 北海道における中国語圏からの留学生および道内観光産業に就職する留学生のキャリア意識調査とキャリア形成プログラムの開発に関する一考察—北海道内の観光ホテル支配人と元留学生のインタビュー調査を手掛かりとして—, 北海道開発協会開発調査総合研究所令和元年度助成研究論文集, pp.235-261